

熟年離婚回避するには

結婚指輪してますか？

15年の別居を経て

「熟年離婚」という言葉が定着して、どれくらいいたのでしょうか。仕事一筋の夫が定年を迎えた日、妻が三丁半を突き付け「……そんなママの顔名に用いられ、流行語になったのが2005年のこと。実際、熟年離婚は増えています。厚生労働省の「離婚に関する統計」によると、同居20年

以上の夫婦の離婚(08年)は約3万9000件。30年前の4.5倍に上りました。15年の別居を経て、再び夫と暮らし始めました。このメールが届きました。熟年離婚の一手手前まで進みながら、別居という冷却期間を経て、新たな関係を紡いでおられるようです。

メールの主は、近畿に住む恵さん(仮名、63)。20代で4歳上の会社員の夫と結婚

し、3人の息子を授かりました。が、家事も子育ても恵さん一人の傍ら、夫は仕事ばかり。「暑くなってきている」といふ態度も嫌だった。夫の会社の合宿は次々と減っていききました。

毎日感謝の声かけを

なく、マイホームの購入を決めました。2人の間の溝は決定的となり、別居に突入しました。恵さんは自立のために就職。離婚届に署名して持っていた時期もあります。暗い切りがつかみません。夫とは、息子たちの結婚式などで顔を合わせる程度でした。

実父を5年前にみとった後、一緒に食事をする機会が増え、昨年来、恵さんが折れ

る形で夫の住む家に移りました。老後の不安を感じ、中、「助け合える相手は？」と考へての決断でした。

離れて分かること

当初は料理の味付けもテレビの音で衝突もしていましたが、恵さんは以前に比べ、思っていたよりも穏やかなりました。夫もユーモアで返すなど会話を楽しみ、「離れて

「妻から」9割超

岸田さんの経験では、熟年夫婦の場合、離婚を切り出すのは、9割以上が妻。相談の大半が「突然で、理由もわからない」という夫からです。

毎日「声かけ」が大切です。ただ、簡単に急げばきかない人が多く、「離婚を告げられてから実行し、成功した夫はほとんどいません」。岸田さんの言葉が重く響きました。

みて、助けられてたんとわかった」と、恵さんへの感謝も口にするそうです。

15年の別居を経て、夫と再出発した恵さん。しかし、NPO法人「日本家族問題相談連盟」(東京)の認定離婚カウンセラーで行政書士、社会保険労務士の岸田明子さん(大阪)は「恵さんのようなケースはまれ。別居は普通、3か月が分岐点で、それ以上は一人暮らしが快適にな

岸田さんは「退職金や年金などを試算し、夫婦の老後の身体的なプランを示すことも大切」と助言します。

何より大切なのは「ありがとう、おいしかった、などの子が3人暮らしです。何不自由のない生活ですが、夜になると目に見えない恐怖におびえてしまいます。

出産を機に家を建て、新しい土地に引っ越しました。夫は仕事

くらし「家庭

「熟年離婚の基礎知識」と題し消費者取引や製品の安全にパネルの展示もある。無料、先着70人。名前、住所、電話番号、メールアドレスを書いて、生活科学総合センター(078・302・4001)にファクス(078・302・4002)かメール(seikatsu kagakusogo@pref.hyogo.lg.jp)で申し込む。